

村史こぼれ話 24

彌彦神社相撲節会と相撲大会

彌彦神社では、毎年 8 月 27 日に相撲節会すもうまつえが行われている。この神事は午前 9 時半、彌彦神社神前での祭典後、化粧まわしをつけた力士役が太刀持ちを従えて手数入てずいりを行う。その後、神官、力士役が法螺貝ほらがいを先頭に列を組み、氏子関係者共々少し離れた弥彦街中にある末社諏訪神社で祭典、手数入てずいりを行い、神社境内の土俵場に戻り再び手数入てずいり行う。次いで午前 11 時から、新潟県高等学校奉納相撲大会（今年は第 50 回）が開催され、午後 2 時から氏子会主催で村内子供相撲大会が行われている。

この神事は元禄 3 年（1690）7 月 27 日に執り行われたこと、文政 2 年、3 年（1819、1820）頃には相撲を行い、屋敷まかないに「おむすび」が神主宅より遣わされたことなどが神社の記録にある。さらに、天保 15 年（1844）には、子供相撲こぎょうが賑々しく興行にぎにぎされていた。

昭和 32 年には、相撲道の振興、体育発展の目的で大相撲立浪部屋から力士 2 名しょうべいを招聘し指導を仰いだ。これには本県出身の名横綱である立浪親方たつなみ（羽黒山政司：旧中之口村羽黒出身）の尽力があり、派遣される 2 名の力士の内 1 名は本県出身者を当てるなどの心遣いがなされた。これは昭和 45 年まで 14 回行われている。

また、昭和 58 年と翌 59 年には、時津風部屋ときづかぜ（親方元大関豊山 新発田市出身）より力士 2 名が派遣されている。

弥彦公園には、新潟県唯一の横綱羽黒山の業績をたたえた記念碑が昭和 47 年に建立された。碑文は次のとおりである。

三十六代横綱
羽黒山政司之碑
加藤清二郎書



碑を書いた加藤清二郎氏は彌彦神社責任役員で、立浪部屋の後援会長であった。氏は旧白根市の出身で、東京神田に洋食屋「須田町食堂」を開店、以後支店網を広げて“食堂王”とよばれ、現在の「聚楽」チェーンの創業者である。

（資料提供：彌彦神社）